

第14回長臨技WEBセミナー Q & A

Q1：レビー小体型認知症にも抗アミロイドβ抗体は有効でしょうか？

回答：レビー小体型認知症には抗体治療薬の使用は適用になっていません。
アミロイドβ抗体薬ですので、アルツハイマー病理のみ効果が期待されています。
レビー小体型認知症の原因物質はレビー小体(αシヌクレイン)ですので、今後の治療薬誕生に期待です。
しかしアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の合併型の患者には使用可能です。

Q2：早期発見ということで認知症の自覚がない方に検査を進めるにはどのような伝え方が良いでしょうか。

回答：まずスクリーニング検査を行う場合には患者側が主体的に受けようと思わない限り実施をすることは困難です。
伝え方としては年齢を理由（例えば70歳以上は受ける義務がある...）にしてみるのはいかがでしょうか？
もしくは姿勢カルテやインボディ、検査と健康展で実施されている項目と抱き合わせて自然と実施することが理想的だと考えます。

Q3：私も50代後半なので物忘れが多くなってきました。受診のタイミングが難しいなと思っておりアドバイスがあればお願いします。

また、認知症のご家族の方が患者様を叱るケースをたまに見かけるので何とかしたいなと思うのですが、ご家族にかける言葉などあれば教えて欲しいです。

いつも「まあまあ、それくらいで…」くらいしか言えないので、よろしくをお願いします。

回答：受診のタイミングは普段できていることに支障をきたすことがあれば一度受診を検討していただければと思います。重要な会議や人に会う約束を立て続けに忘れてしまう、今までミスしたことがないことを業務内でミスしてしまう...等を判断材料にしてはどうでしょうか？

また患者さんとの対応、声掛けに苦慮されていること、お察しいたします。

私たちセンターで対応する際は家族と本人を離れた状態で30分ほど時間をかけて聴取します。聴取内容としてはまずは一旦家族の不満や悩みを洗いざらい聞き、その後に認知症の病気や適切な声掛けについて指導・助言しています。患者さん・家族の両方に言い分があり、家族の話を聞かずに指導すると家族が反発する時もあります。家族への対応は「伝え方」よりも「聞き方」が重要です。

おそらく検査中の短時間での対応を求められていると思います。そのため、まずは短時間（2?3分の余裕があれば）でもよいので家族の言い分を聞き入れてから助言していただけると効果的だと思います。助言内容はどのような場面で怒っているのかで変わるので、ここでは割愛します。そして認知症サポーター養成講座を案内し「認知症について学んでみませんか？」と誘っていただけると尚よいかと思えます。

最後に・・・

今回の勉強会以外でも対応に苦慮されたり、質問等あれば、
いつでも気軽にご連絡ください。
イーライリリーの“ドナネマブ”は早くて12月ごろ、遅くて
2025年1月からの使用になりそうです。

社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院 認知症疾患医療センター

係長（精神保健福祉士） 日和田 正俊

E-Mail : dementia.center.smc99@gmail.com

〒857-1195 長崎県佐世保市大和町15番地

TEL/FAX : 0956-33-7122（センター直通）